

防災問題研究会 キリンビール横浜工場の防災事例紹介と工場見学

キリンビール横浜工場より、3月11日の東日本大震災発生時の対応を含め、地震対策事例を紹介いただき、工場・施設見学を実施した。

キリンビール横浜工場の地震対策の特徴

- ・災害対策本部と21の地区隊により構成
- ・災害対策本部と地区隊の間はトランシーバーにより連絡。通信訓練を毎月実施（電話や携帯が使用できない環境下でトランシーバーは有効な連絡手段として見直されている）
- ・毎年2回の総合訓練を実施
- ・5,750kwの自家発電機を3基設置（震災後は8,000～10,000kwを東電へ送電）
- ・横浜市と震災時に飲料水を供給する協定を締結済み（今回も横浜市の要請により供給した）

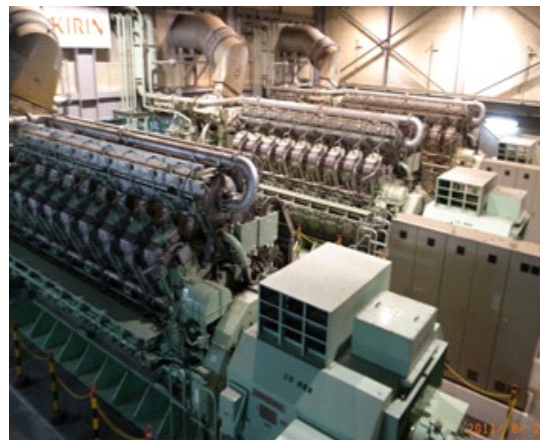
3月11日の東日本大震災発生時の対応

耐震・転倒対策を実施しており、特に被害は発生せず。また、訓練の成果により大きな混乱は発生しなかった。災害対策本部としてはうまく対応できたと考えていたが、事後にアンケート調査したところ、従業員（約1,200名）より「情報が少なく不安であった」などの3百件以上の意見があった。今後はその他の顕在化した課題と合わせ、ひとつひとつ対応していく予定。

今後の対策

- ・3mの津波を想定し、避難場所を変更
- ・製品出荷エリアの製品荷崩れを想定し、緊急地震速報と放送設備を設置・・・など

説明・工場見学のあとの親睦会には、野中工場長にも参加戴き、研究会員同士の情報交換を行うと共に親睦を深めた。（文責事務局）



自家発電装置（5,750kW x 3基）



自家発電装置を説明する清水副工場長